

令和 5 年 6 月 2 日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01550

研究課題名（和文）知の活用と探索に対する管理会計の役割の研究

研究課題名（英文）The role of management accounting for knowledge exploitation and knowledge exploration

研究代表者

三矢 裕 (MIYA, Hiroshi)

神戸大学・経営学研究科・教授

研究者番号：00296419

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,800,000円

研究成果の概要（和文）：知の活用と探索に対して、管理会計がどのような役割を果たすかについて、個人と集団・企業・企業間の3つの組織レベルで経験的研究を実施した。各組織レベルでの管理会計の異なる役割を確認できた。本研究チームの研究成果は、国内外の数多くの査読雑誌に論文として掲載された。そのうちの2本は、国内の管理会計領域の学会より学会賞を授与された。実務への提言については、コロナ禍の影響で遅延が余儀なくされた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

知の活用に対する管理会計の役割は従来より指摘されていた。本研究より、知の探索に対しても管理会計が役立つことがわかった。特に、管理会計を、経営理念や組織文化などと組み合わせ補完的に利用することの有効性に関する示唆が得られた。今日注目される「両利き経営」の理論を発展させるという点においても、本研究の成果は意義があると言える。

研究成果の概要（英文）：The goal of this research is to examine how management accounting affect knowledge exploitation and knowledge exploration. We found different roles of management accounting among individual/group, company, and inter-company level. We published several empirical research papers in international and domestic peer-reviewed journals. Two of them received best paper awards from domestic journals. Due to the Covid-19, we experienced difficulties to apply the findings of this research to industry.

研究分野：管理会計と組織の関係性

キーワード：知の探索・活用 管理会計 経験的研究 組織レベル 創造性 イノベーション フィードフォワード
パッケージ

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

伝統的な管理会計の中心的役割は、企業内において過去の組織パフォーマンスを測定し、フィードバックを行って、業績管理することにあった。このような過去との連続性がある知を「活用」しながら改善を促進する際、管理会計は強力なツールとなる。ある企業で成功した管理会計システムを他の企業に導入したり、個人や集団が保持する管理会計のノウハウを他に移転して知を活用したりすることは、今日でも研究と実務における重要イシューである。

ところで、企業の関心が知的資産に向けられていることは言を俟たない。新たな知の「探索」を通じて過去と非連続なイノベーションを促すべく、経営学の諸領域で知識創造や知財管理など知のマネジメントの研究が進んでいる。一方、管理会計は過去の情報を前提とするため、組織メンバーを過剰に管理しかねず、イノベーションを阻害するという見方もある。

だが、管理会計には未来の予測情報の事前提供というフィードフォワード機能もある。これを用いて過去とは非連続な知の「探索」を支援し、イノベーションを促進すると主張する研究もある。原価企画の研究では、R&D や購買や製造などの部門がチャレンジングな財務的目標数値を共有することで、部門間の連携が促進され、製品開発能力が向上するとされている。R. Simons は「Levers of Control」(1995)の中で、月次の予算会議等の場面でトップとミドルが管理会計を介してインタラクションを行うことで、戦略やイノベーションが創発されると指摘した。R. Kaplan らは「Strategy Maps」(2004)で、バランス・スコアカードの適切なプロセス管理を行えば、戦略実現に必要な知的資産の獲得と蓄積ができると主張した。

近年、企業内の知的資産の測定方法、パッケージ化(=管理会計と理念や文化などを補完的に組み合わせたマネジメント)と組織学習の関係、知的活動を行うホワイトカラーの評価、創造性とインセンティブの関係など、意欲的な研究がトップジャーナルにおいて公表されるようになってきた。さらに、管理会計は企業内にとどまらず、企業間のオープンイノベーションを促進すると主張する論文も公表されている。2017年の米国会計学会管理会計セクションでは、創造性を主題とした統一テーマが設けられた。今日、管理会計が知の探索に対してどのような役割を果たすかは、管理会計研究の最重要イシューであると言える。

2. 研究の目的

「知の活用と探索に対して、管理会計は各組織レベルにおいてどのような役割を果たすのか」の解明のため、本研究は2つの目的を有する。第1の目的として、個人と集団・企業・企業間の3つの組織レベルでチームを編成し、各々における知の活用と探索に関連する喫緊の課題を明確に抽出する。さらに、コロナ禍の制約を勘案して適切なメソッドで経験的研究(質的な事例調査、大規模な質問票調査、アーカイバル分析、実験室実験、フィールド実験など)を実施し、各組織レベルにおける管理会計と知の活用・探索の関係を明らかにする。それらの成果を国内外へ発信する。

第2の目的として、先行研究および本研究の各組織レベルのファインディングスを統合し、知の活用と探索に対する管理会計の役割についての理論体系を構築し、国内外へ発信する。理論体系に基づき、コロナ禍の企業実務に対しても有用な管理会計に関する提言を行う。

3. 研究の方法

本研究は、総勢15名の研究者によって遂行された。各々が、個人と集団・企業・企業間の3つの組織レベルのいずれかに対し、単独あるいは小チームを編成して、文献レビュー、質問票調査、アーカイバル分析、事例研究を行った。それらは、個別の研究として、国内外の学会で報告されるとともに、査読雑誌に投稿された。なお、本研究の大半の期間は、コロナ禍であったため、企業訪問が困難であった。よって、実務への提言については、開始が遅延するとともに、積極的には行えなかった。さらに、2022年度に神戸大学で開催が企図されていた AMARS(Asia-Pacific Management Accounting Research Symposium)は不開催となった。

4. 研究成果

上記の第1の研究目的についての成果は非常に多いため、年度別に挙げて行く。

2019年度の主たる業績は以下のとおりである。

論文として、海外の査読雑誌に個人と集団・企業・企業間レベルで各1本掲載された。国内の査読雑誌に、企業レベルで2本の論文が掲載された。

学会報告として、個人と集団については、小笠原が世界最高峰の米国管理会計学会管理会計部会で発表を行った。企業レベルでは、安酸は世界のトップ研究者のみが発表を許される Global Management Accounting Research Symposium で発表を行った。

2020 年度の主たる成果は以下のとおりである。

海外の査読雑誌に 3 本の論文が掲載された。創造性を喚起する際に重要となるマネジメントコントロール情報のインタラクティブな利用に関して、大浦および新井の論文は、3 つの組織レベルにまたがる経験的研究である。査読雑誌ではないものの、個人レベルに焦点を当てた田口・佐久間・三矢の論文は、非常に困難とされている「情報提供が創造性に与える影響」を実験室実験で解明しようとしたものである。企業レベルの研究としては、河合の「業績管理システム設計の決定要因：財務指標・非財務指標の整備に焦点を当てて」という論文は日本原価計算研究学会の学会賞を受賞した。本論文は、国内製造業企業への質問票調査であるが、企業が財務指標と非財務指標で構成される業績管理システムを設計する際に影響を与える要因を明らかにした。今後、企業が創造性を高めるための管理システム設計に対して示唆を与える論文である。

学会報告に関しては国内外ともにオンラインでの報告が行われた。財務的な業績と比較し、創造性などは主観的な判断が求められるため、今後の重要なインプットとなった。

2021 年度の主たる成果は以下のとおりである。

海外の査読雑誌に 1 本の論文が掲載された。新井の研究は企業レベルのサーベイ研究である。リーン生産の製造業において財務情報と非財務情報の利用と創造性の関係について解明を試みた。国内の査読誌には 4 本が掲載された。安酸が「会計プログレス」に掲載した研究の対象は企業レベルの創造性である。公表財務データを用いて決算早期化が財務業績に与える影響の実証を行った。窪田・劉・三矢の「イノベーション戦略とマネジメント・コントロールの有効性 両利き経営のための示唆」は管理会計学会賞を受賞した。創造性とイノベーションは密接に関わり合いがある。これらに対して企業が採用するマネジメントコントロールパターンの関係をサーベイによって明らかにした。今日、経営学において注目を集める「両利き経営」の理論を援用して解釈を行ったことは、今後の創造性研究において重要な進歩と言える。大浦・河合・坂口は文献レビューによって、企業間関係の先行研究がどのような基礎の上に研究が蓄積されたかの系譜を示した。企業間レベルの創造性について研究を行う際の貴重なガイドラインとなるであろう。

学会報告に関しては国内外ともに多数行った。安酸（共同）と田口（共同）は各々、会計領域最高峰の米国会計学会で、安酸（単独）と福島（共同）は高水準の欧州会計学会で報告を行った。日本原価計算研究学会の産学連携コストフォーラムにおいて、三矢と小笠原はフィールド実験の成果の一部を発表した。

2022 年度の主たる成果は以下のとおりである。

海外の査読雑誌に 1 本の論文が掲載された。尻無濱の研究は企業レベル（公立病院）のサーベイ研究である。会計情報を使いこなすことは創造性の喚起に寄与するが、それらが会計に関する知識の保有度合いや権限移譲の程度と関係があることを実証的に解明した。国内の査読雑誌に掲載された論文は 5 本である。管理会計学に掲載された小笠原・新井他の研究の対象は企業レベルである。見えざる資産（創造性など）を会計情報から測定し、それらが中長期的な将来利益にどれだけ影響を与えるのかを実証した。三矢他が原価計算研究に掲載した論文は、長期間のアメリカ経営とフィロソフィの導入を実施したアクテック（株）における経時的事例研究である。ここでは管理会計と組織文化とが、個人と集団レベルにおける創造性に影響を与えながら組織変革を行うプロセスを丹念に記述し、分析している。これは、前年度、日本管理会計学会 2022 年度学会賞（論文賞）を受賞した窪田・劉・三矢が行った企業レベルの研究を補完するものと位置づけられる。

著書として、坂口は「組織間マネジメント・コントロール論：取引関係の構築・維持と管理会計」を中央経済社より出版した。この書籍では企業間レベルの創造性とマネジメントコントロールの関係も論じられている。

学会報告に関しては国内外ともに多数行った。田口や大浦は国際学会での発表を行っている。これらの成果は、2023 年度以降の研究成果となることが期待されている。

上記の第 2 の研究目的についての成果として、2017-2018 年度日本会計研究学会特別委員会「知の活用・探索と管理会計に関する研究（代表：三矢裕）」の最終報告を行った。知の活用と探索に対する管理会計の役割という壮大なテーマではあるが、知の活用と探索を横軸に、個人と集団・企業・企業間の各組織レベルを縦軸に考えると図 1 のようなフレームワークで捉えられることがわかってきた。そして、個人と集団および企業レベルについては、知の活用に対して、知の探索の解明が遅れていたが、おぼろげながら概要がわかってきた。一方、企業間についての知の活用についても、知の探索についてもほとんど先行研究が存在しなかった。本研究においても、経験的研究はやや手薄のままとなっている。これは企業間での知の活用と探索の実務が、非常に把握しにくいものだからと言えよう。少なくとも本研究の成果として、文献レビューは十分に行ったことは、今後の研究の進展にとっては非常に意義があると言えよう。

	知の活用	知の探索
個人と集団		
企業		
企業間		

図 1 知の活用と探索に対する管理会計の役割についての研究フレームワーク

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計57件（うち査読付論文 28件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 25件）

1. 著者名 小笠原 亨、新井 康平、井上 謙仁	4. 巻 31(1)
2. 論文標題 企業の戦略的行動が持続的な競争優位に与える影響の検証	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 管理会計学	6. 最初と最後の頁 37～53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24747/jma.31.1_37	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 横田 絵理、乙政 佐吉、坂口 順也、河合 隆治、大西 靖、妹尾 剛好、鬼塚 雄大	4. 巻 31(1)
2. 論文標題 国際学術会計雑誌の潮流からみたわが国マネジメント・コントロール研究の特徴	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 管理会計学	6. 最初と最後の頁 71～88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24747/jma.31.1_71	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 張 蘊涵、安酸 建二	4. 巻 31(1)
2. 論文標題 中長期的な売上高目標がコスト変動に与える影響 中期経営計画上の売上高目標を用いた実証研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 管理会計学	6. 最初と最後の頁 145～164
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24747/jma.31.1_145	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田口 聡志	4. 巻 74(6)
2. 論文標題 Non-GAAP利益開示のコスト・ベネフィットと有用性を超えて：信頼性から企業会計の本質を問い直す	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 同志社商学	6. 最初と最後の頁 869～900
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/00029512	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 福島 一矩	4. 巻 64(5-6)
2. 論文標題 わが国非製造業における業績管理の特徴と利用：実態調査の結果報告	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 商学論纂	6. 最初と最後の頁 137～155
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Yusuke Sawada, Yoshitaka Hirose, Satoshi Taguchi	4. 巻 23-02
2. 論文標題 Does the interaction of power distance and fairness perception decrease corporate frauds? An experimental study on mutual monitoring	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Doshisha University ITEC Working Paper	6. 最初と最後の頁 1～34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 劉 美玲	4. 巻 12
2. 論文標題 アメーバ経営における両利き経営の実施可能性 組織デザインの視点からの考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 鹿児島大学稲盛アカデミー紀要	6. 最初と最後の頁 33～52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 妹尾 剛好、吉田 栄介、福島 一矩	4. 巻 62
2. 論文標題 非製造業における探索と深化，両利きの経営が日本の管理会計行動に与える影響：製造業との比較分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経理研究	6. 最初と最後の頁 83～95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi Taguchi, Kiho Tanaka, Manami Tsuruta, Daiki Nagata, Katsuhiko Isokawa	4. 巻 22-04
2. 論文標題 Second-order trust in algorithms: How does algorithm aversion spill over during the pandemic?	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Doshisha University ITEC Working Paper	6. 最初と最後の頁 1~32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田口 聡志	4. 巻 74(2)
2. 論文標題 「将来可能性」と価値創造のフューチャー・ガバナンス構想：企業組織と業績評価のre-designに向けて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 同志社商学	6. 最初と最後の頁 487~510
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14988/00029308	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河合 隆治	4. 巻 46(1)
2. 論文標題 日本の管理会計研究のインパクト	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 原価計算研究	6. 最初と最後の頁 1~11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20747/jcar.46.1_1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶原 晃、新井 康平、新美 篤志、山口 圭三	4. 巻 3
2. 論文標題 診療所における経営知識の獲得と経営情報システム導入に関する調査研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医療経営と病院管理	6. 最初と最後の頁 1~9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shirinashihama Yoshitaka	4. 巻 30(3)
2. 論文標題 Management accounting knowledge, limited managerial discretion and the use of management accounting: evidence from Japanese public hospitals	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asian Review of Accounting	6. 最初と最後の頁 338 ~ 351
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/ARA-11-2021-0218	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部 泰宏、矢寺 顕行、新井 康平	4. 巻 34(1-2)
2. 論文標題 社内の評判と人事考課：概念間の関係性と影響要因の探求	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 経営行動科学	6. 最初と最後の頁 1 ~ 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5651/jaas.34.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 三矢 裕、鈴木 貴之、加登 豊	4. 巻 46(2)
2. 論文標題 アクテック株式会社におけるアメーバ経営の導入 経時的事例研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 原価計算研究	6. 最初と最後の頁 15 ~ 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20747/jcar.46.2_15	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshitaka Shirinashihama	4. 巻 -
2. 論文標題 Hybridization, Managerial Discretion, and Management Accounting: A Case Study of Public Hospitals	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 SSRN Electronic Journal	6. 最初と最後の頁 1 ~ 26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2139/ssrn.4070149	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 窪田 祐一、劉 美玲、三矢 裕	4. 巻 30(1)
2. 論文標題 イノベーション戦略とマネジメント・コントロールの有効性 両利き経営のための示唆	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 管理会計学	6. 最初と最後の頁 3~20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24747/jma.30.1_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐久間 智広	4. 巻 33(6)
2. 論文標題 日本の管理会計研究における査読論文の特徴: 共著関係・著者の属性の視点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 松山大学論集	6. 最初と最後の頁 81~109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤 大智、佐久間 智広、早川 翔	4. 巻 e2021(5)
2. 論文標題 販売費及び一般管理費が創出する将来価値: Banker et al. (2011) の追試	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 会計科学	6. 最初と最後の頁 1~5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi Taguchi, Kazunori Miwa, Tatsushi Yamamoto	4. 巻 22-02
2. 論文標題 The Effect of Escalating Lies on Business Ethics: An Experimental Study of the Repeated Deception Game	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Doshisha University ITEC Working Paper	6. 最初と最後の頁 1~64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yusuke Sawada, Satoshi Taguchi	4. 巻 22-01
2. 論文標題 Unintended Consequences of Budget Participation and Performance Misreporting: An Experimental Study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Doshisha University ITEC Working Paper	6. 最初と最後の頁 1~53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福島 一矩、牧野 功樹、妹尾 剛好、新井 康平、町田 遼太	4. 巻 40
2. 論文標題 中小企業における会計知識がMCSの採用に与える影響とその経済的帰結	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 企業研究	6. 最初と最後の頁 41~52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福島 一矩	4. 巻 40
2. 論文標題 日本企業の組織能力と業績管理の利用 : 実態調査の結果報告	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 企業研究	6. 最初と最後の頁 53~67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大浦 啓輔、河合 隆治、坂口 順也	4. 巻 45(2)
2. 論文標題 わが国における組織間マネジメント・コントロール研究の知見	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 原価計算研究	6. 最初と最後の頁 39~52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20747/jcar.45.2_39	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi Taguchi, Yusuke Sawada, Yoshitaka Hirose	4. 巻 73(3)
2. 論文標題 An Experimental Study on Potential Whistleblowing Intentions in Conspiracy : A Dilemma of Fairness and the Risk of Reporting	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 同志社商学	6. 最初と最後の頁 921 ~ 937
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14988/00028628	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安酸 建二	4. 巻 2021(22)
2. 論文標題 決算早期化が財務業績へ与える影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 会計プロGRESS	6. 最初と最後の頁 1 ~ 16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34605/jaa.2021.22_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田口 聡志、永田 大貴、磯川 雄大	4. 巻 18
2. 論文標題 Tech × 会計 × 信頼研究が切り拓く会計の未来	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Disclosure & IR 72	6. 最初と最後の頁 72 ~ 80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片岡 亮太、永田 大貴、小笠原 亨、早川 翔、三矢 裕	4. 巻 223(6)
2. 論文標題 目標設定とインセンティブの関係 : 管理会計における経済学に基づく実証研究に関する文献レビュー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国民経済雑誌	6. 最初と最後の頁 19 ~ 39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 妹尾 剛好	4. 巻 73(6)
2. 論文標題 脱予算経営	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 企業会計	6. 最初と最後の頁 43～47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福島 一矩	4. 巻 73(6)
2. 論文標題 インタラクティブ・コントロール	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 企業会計	6. 最初と最後の頁 53～57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田口 聡志、椎葉 淳、三輪 一統、村上 裕太郎	4. 巻 73(1)
2. 論文標題 会計情報と報酬契約の関係を巡る理論と実験の乖離：説明の根拠を巡って	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 同志社商学	6. 最初と最後の頁 81～114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14988/00028515	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kohei Arai	4. 巻 20(2)
2. 論文標題 Lean Manufacturing and Performance Measures: Evidence from Japanese Factories	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 IUP Journal of Operations Management	6. 最初と最後の頁 7～34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新井 康平、福嶋 誠宣、安酸 建二、栗栖 千幸	4. 巻 63
2. 論文標題 病院事業を営む地方公営企業のコスト・ビヘイビアとコスト構造 混雑コストの観点からの分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 会計検査研究	6. 最初と最後の頁 75～88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安酸 建二	4. 巻 29(2)
2. 論文標題 エビデンス・ベーストな管理会計研究を目指して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 管理会計学	6. 最初と最後の頁 3～11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24747/jma.29.2_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 窪田 祐一	4. 巻 73(3)
2. 論文標題 会計時評 イノベーションを促進するための管理会計	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 企業会計	6. 最初と最後の頁 124～125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小笠原 亨、早川 翔、吉田 政之	4. 巻 29(1)
2. 論文標題 相対評価における追加的なモニタリング	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 管理会計学	6. 最初と最後の頁 19～31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24747/jma.29.1_19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Matsuo, Kohei Arai, Takami Matsuo	4. 巻 17 (2)
2. 論文標題 The influence of an interactive use of management control on individual performance: mediating roles of psychological empowerment and proactive behavior	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Accounting & Organizational Change	6. 最初と最後の頁 263 ~ 281
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/JAOC-06-2020-0079	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本 達司、田口 聡志、三輪 一統	4. 巻 12(2)
2. 論文標題 粗雑なシグナルか、精緻なシグナルか? - 逆淘汰防止のための経営管理ツールの構築に向けて -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 メルコ管理会計研究	6. 最初と最後の頁 47 ~ 62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安酸 建二、中岡 孝剛	4. 巻 12(1)
2. 論文標題 アナリスト予想にみられるコスト予想 経営者予想との比較	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 メルコ管理会計研究	6. 最初と最後の頁 31 ~ 42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安酸 建二	4. 巻 44(1)
2. 論文標題 実務に対する原価計算・管理会計研究の役割 研究は何を問うべきか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 原価計算研究	6. 最初と最後の頁 38 ~ 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20747/jcar.44.1_38	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河合 隆治	4. 巻 44(1)
2. 論文標題 業績管理システム設計の決定要因 財務指標・非財務指標の整備に焦点を当てて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 原価計算研究	6. 最初と最後の頁 61～74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20747/jcar.44.1_61	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川 翔、三矢 裕、佐久間 智広、澤田 雄介、田口 聡志	4. 巻 80(3)
2. 論文標題 マネジメント・コントロール・システムによる情報提供が創造性に与える影響：実験室実験	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 産業経理	6. 最初と最後の頁 115～125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 三矢 裕、佐々木 郁子、吉田 政之	4. 巻 72(7)
2. 論文標題 管理会計は新型コロナウイルスからの復旧・復興を支援できるのか? : 東日本大震災の実証研究の成果の拡張	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 企業会計	6. 最初と最後の頁 73～79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Matsuo, Kohei Arai, Takami Matsuo	4. 巻 32(3)
2. 論文標題 Effects of managerial coaching on critical reflection: mediating role of learning goal orientation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Workplace Learning	6. 最初と最後の頁 217～228
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1108/JWL-06-2019-0086	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ana Yetano, Takami Matsuo & Keisuke Oura	4. 巻 44(1)
2. 論文標題 Diagnostic and Interactive Use of PMM by Japanese Local Governments: Does the Context Affect the Fitness of Use?	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Public Performance & Management Review	6. 最初と最後の頁 28 ~ 57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15309576.2020.1817108	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 大浦 啓輔、松尾 貴巳	4. 巻 44(1)
2. 論文標題 自治体公共施設サービスのアウトソーシングにおける組織間コントロール	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 原価計算研究	6. 最初と最後の頁 142 ~ 155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20747/jcar.44.1_142	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅田 孝幸、大浦 啓輔、平井 裕久、堀井 悟志	4. 巻 44(1)
2. 論文標題 日本企業のグローバル経営における予算管理の有効性 国内・海外子会社の管理の比較研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 原価計算研究	6. 最初と最後の頁 156 ~ 168
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20747/jcar.44.1_156	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 早川翔・妹尾剛好・安酸建二・新井康平・横田絵理	4. 巻 28(1)
2. 論文標題 予算文化が利益目標のラチェットに与える影響 経営者利益予想による実証研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 管理会計学	6. 最初と最後の頁 19 ~ 36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24747/jma.28.1_19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小笠原亨・井上謙仁	4. 巻 2020 (6)
2. 論文標題 ジェネリック戦略は財務指標から測定できるか? : Banker, Mashruwala, and Tripathy (2014) の追試	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 会計科学	6. 最初と最後の頁 1~5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安酸建二	4. 巻 11(1)
2. 論文標題 The effect of the lead time for providing financial statements on profitability in Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asian Journal of Information and Communications	6. 最初と最後の頁 88~95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 安酸建二	4. 巻 71(5)
2. 論文標題 会計情報の作成過程の信頼性 正直であるはずの人が不正を行うのはなぜか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 企業会計	6. 最初と最後の頁 4~5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐久間智広	4. 巻 31(3)
2. 論文標題 日米のデータベースおよび会計基準の違いが販売費及び一般管理費の変動に関する分析結果に与える影響	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 松山大学論集	6. 最初と最後の頁 73~97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 深見佳保・早川翔・佐久間智広・三矢裕	4. 巻 220(2)
2. 論文標題 創造性と管理会計の関係に関する文献レビュー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国民経済雑誌	6. 最初と最後の頁 49～75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24546/E0041852	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Dekker, H.C., T. Kawai, and J. Sakaguchi.	4. 巻 31(2)
2. 論文標題 The interfirm contracting value of management accounting information.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Management Accounting Research	6. 最初と最後の頁 59～74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2308/jmar-52058	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 尻無濱芳崇	4. 巻 -
2. 論文標題 自治体病院経営者のハイブリッド化と管理会計の活用阻害要因	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本会計研究学会 特別委員会「知の活用・探索と管理会計に関する研究」最終報告書	6. 最初と最後の頁 80～101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Makoto Matsuo, Kohei Arai, Takami Matsuo	4. 巻 23 (4)
2. 論文標題 Empowering leadership and meaningful work: the mediating role of learning goal orientation	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 International Journal of Training and Development	6. 最初と最後の頁 328～338
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ijtd.12165	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浅田孝幸・大浦啓輔・平井裕久・堀井悟志	4. 巻 71(5)
2. 論文標題 日本企業の国内・海外子会社に対する予算管理は成果を生むか? 2018年度実態調査・比較分析を踏まえて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 企業会計	6. 最初と最後の頁 650 ~ 655
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計35件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 Shimokawa, U., Yamashita, Y., Taguchi, S.
2. 発表標題 Impact of Implicit Theories on the Intent to Use “Performative AI” and “Advisory AI”
3. 学会等名 Society for Personality and Social Psychology (SPSP) 2023 Annual Convention (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Satoshi Taguchi
2. 発表標題 An experimental study on corporate disclosure thinking about future generations
3. 学会等名 Workshop on Microeconomic Analysis of Social Systems and Institutions: Theory, Experiment, and Empirical Studies (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Oura Keisuke
2. 発表標題 Effect of inter-firm control and coordination on boundary spanners' role conflict & ambiguity; The duality of intra and inter-firm control
3. 学会等名 13th Conference on New Directions in Management Accounting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 劉 美玲、窪田 祐一、三矢 裕
2. 発表標題 アメーバ経営における両利き経営
3. 学会等名 日本管理会計学会2022年度年次全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉田 政之、打田 昌輝、佐々木 郁子、三矢 裕
2. 発表標題 マネジメント・コントロール・システムの組み合わせと不確実性の急激な高まり 新型コロナウイルス感染症禍における日本企業A社へのインタビュー調査をもとに
3. 学会等名 日本管理会計学会2022年度年次全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 三矢 裕、鈴木 貴之、加登 豊
2. 発表標題 アメーバ経営の定着 - アクテックの事例
3. 学会等名 日本原価計算研究学会第47回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kenji Yasukata, In Gyun Baek, Ella Mae Matsumura
2. 発表標題 Do Management Revenue Forecasts Explain the Asymmetrical Behavior of Operating Costs?
3. 学会等名 2022 Management Accounting Section Midyear Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 張 繡涵、安酸 建二
2. 発表標題 中期経営計画上の売上高目標がコスト変動に与える影響
3. 学会等名 日本管理会計学会2021年度年次全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 舒 文娟、安酸 建二
2. 発表標題 財務報告の早さと財務業績との関係
3. 学会等名 日本管理会計学会2021年度年次全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kenji Yasukata
2. 発表標題 An Economic Consequence of Asymmetric Cost Behavior: Does Cost Reduction During Sales Decreases Have An Impact on Lowering Costs in the Future?
3. 学会等名 European Accounting Association EAA 2021 Virtual Congress (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂口 順也
2. 発表標題 取引相手の選択における第三者の情報の利用
3. 学会等名 日本原価計算研究学会第47回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yusuke Sawada, Satoshi Taguchi
2. 発表標題 Unintended Consequences of Budget Participation and Performance Reporting: An Experimental Study
3. 学会等名 2022 American Accounting Association Management Accounting Section Virtual Midyear Meeting (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 河合 隆治
2. 発表標題 日本の管理会計研究のインパクト
3. 学会等名 日本原価計算研究学会第47回全国大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 METOKI Takehiro, FUKUSHIMA Kazunori
2. 発表標題 The relationship between experiential learning capability related to performance management system and performance in the public sector
3. 学会等名 1st European Accounting Association Virtual Annual Congress 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新井 康平、町田 遼太、荻原 啓佑、尻無濱 芳崇
2. 発表標題 病院における「コスト・資産効率」としての経営者能力スコア：公立病院による検証
3. 学会等名 日本原価計算研究学会第47回全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 David H. Erkens, Tomohiro Sakuma, Jason D. Schloetzer
2. 発表標題 The Role of Flexible Targets in Rebalancing Incentives
3. 学会等名 日本管理会計学会2021年度年次全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小笠原 亨、新井 康平、井上 謙仁
2. 発表標題 企業の戦略的行動が将来利益に与える影響の検証
3. 学会等名 日本管理会計学会2021年度年次全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安酸 建二
2. 発表標題 決算早期化が財務業績へ与える影響に関する実証研究
3. 学会等名 日本会計研究学会第79回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 窪田 祐一、劉 美玲、三矢 裕
2. 発表標題 イノベーション戦略とマネジメント・コントロールの有効性
3. 学会等名 日本管理会計学会2020年度年次全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安酸 建二
2. 発表標題 エビデンス・ベーストな管理会計研究を目指して
3. 学会等名 日本管理会計学会2020年度年次全国大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 妹尾 剛好、吉田 栄介、福島 一矩
2. 発表標題 非製造業における探索と深化，両利きの経営が日本の管理会計行動に与える影響 - 製造業との比較分析 -
3. 学会等名 日本原価計算研究学会2020年度全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大浦 啓輔、河合 隆治、坂口 順也
2. 発表標題 わが国における組織間マネジメント・コントロール研究の知見
3. 学会等名 日本原価計算研究学会2020年度全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 新井 康平
2. 発表標題 管理会計研究のエビデンス・レベル
3. 学会等名 日本管理会計学会2020年度年次全国大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 澤田 雄介、田口 聡志
2. 発表標題 予算参加と業績報告行動 - 心理要因に焦点を当てたオンライン実験研究 -
3. 学会等名 日本管理会計学会2020年度年次全国大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Toru Ogasawara
2. 発表標題 A Role of Subjective Evaluation for Long-Term Incentives
3. 学会等名 American Accounting Association 2020 Management Accounting Section Midyear Meeting (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安酸 建二
2. 発表標題 リサーチデザインを考える (定量的研究方法論)
3. 学会等名 日本原価計算研究学会 リサーチセミナー (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kenji YASUKATA
2. 発表標題 An Economic Consequence of Asymmetric Cost Behavior: Does Cost Reduction During Sales Decreases Have an Impact on Lowering Costs in the Future?
3. 学会等名 The Asia-Pacific Management Accounting Association (APMAA) holds its 15th Annual Conference (APMAA 2019) at Qatar University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安酸 建二
2. 発表標題 実務に対する原価計算・管理会計研究の役割
3. 学会等名 日本原価計算研究学会第45回全国大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kenji YASUKATA, BAEK, In Gyun, MATSUMURA, Eila Mae
2. 発表標題 Do Management Revenue Forecasts Explain the Asymmetrical Behavior of Operating Costs?
3. 学会等名 Global Management Accounting Research Symposium (GMARS) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河合隆治
2. 発表標題 業績指標設定に影響を与える要因
3. 学会等名 日本原価計算研究学会第45回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尻無濱 芳崇
2. 発表標題 自治体病院における原価情報の未利用要因の解明
3. 学会等名 日本原価計算研究学会第45回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 尻無濱 芳崇
2. 発表標題 自治体病院における原価情報の未利用要因の解明
3. 学会等名 第78回京都管理会計研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 浅田孝幸・大浦啓輔・平井裕久・堀井悟志
2. 発表標題 グローバル経営における予算管理の有効性：国内・海外子会社の管理の比較研究
3. 学会等名 日本原価計算研究学会第45回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大浦啓輔・松尾貴巳
2. 発表標題 自治体公共施設サービスのアウトソーシングにおける組織間コントロール
3. 学会等名 日本原価計算研究学会第45回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 妹尾剛好
2. 発表標題 「システム」としてのマネジメント・コントロールに関する実証研究：予算管理システムの整合性の分析
3. 学会等名 日本管理会計学会2019年度年次全国大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 坂口 順也	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 204
3. 書名 組織間マネジメント・コントロール論：取引関係の構築・維持と管理会計	

1. 著者名 加登 豊、吉田 栄介、新井 康平	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 344
3. 書名 実務に活かす管理会計のエビデンス	

1. 著者名 Chiyuki Kurisu, Yoshinobu Shima, Kenji Yasukata, Hiroshi Umeda, Sakaguchi Hiromasa, Yutaka Kato, Keiko Sasa, Takami Matsuo, Kohei Arai, Shunsuke Adachi, Mami Mizuno, Okihiro Maruta, Noriyuki Imai, Nobuya Fujiwara, Kazunori Ito, Yoshitaka Shirinashihama, Hiroyuki Sekiya, Maiko Kodama, Hideaki Sato, Kenichi Suzuki	4. 発行年 2022年
2. 出版社 World Scientific Publishing Company	5. 総ページ数 336
3. 書名 Management Accounting for Healthcare (Japanese Management and International Studies - Vol.18)	

1. 著者名 新井 康平	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央経済社	5. 総ページ数 172
3. 書名 進化する生産管理会計	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐々木 郁子 (SASAKI Ikuko) (90306051)	東北学院大学・経営学部・教授 (31302)	
研究分担者	安酸 建二 (YASUKATA Kenji) (00309494)	近畿大学・経営学部・教授 (34419)	
研究分担者	坂口 順也 (SAKAGUCHI Junya) (10364689)	名古屋大学・経済学研究科・教授 (13901)	
研究分担者	窪田 祐一 (KUBOTA Yuichi) (40329595)	南山大学・経営学部・教授 (33917)	
研究分担者	田口 聡志 (TAGUCHI Satoshi) (70338234)	同志社大学・商学部・教授 (34310)	
研究分担者	河合 隆治 (KAWAI Takaharu) (30368386)	同志社大学・商学部・教授 (34310)	
研究分担者	大浦 啓輔 (OURA Keisuke) (20452485)	立命館大学・経営学部・教授 (34315)	
研究分担者	福島 一矩 (FUKUSHIMA Kazunori) (50548881)	中央大学・商学部・教授 (32641)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	妹尾 剛好 (SEN00 Takeyoshi) (60610201)	中央大学・商学部・准教授 (32641)	
研究分担者	新井 康平 (ARAI Kohei) (30550313)	大阪公立大学・大学院経営学研究科・准教授 (24405)	
研究分担者	尻無濱 芳崇 (SHIRINASHIHAMA Yoshitaka) (20728331)	神奈川大学・経営学部・准教授 (32702)	
研究分担者	劉 美玲 (LIU Meiling) (30803407)	鹿児島大学・総合科学域総合教育学系・講師 (17701)	
研究分担者	佐久間 智広 (SAKUMA Tomohiro) (40756821)	神戸大学・経営学研究科・准教授 (14501)	
研究分担者	小笠原 亨 (OGASAWARA Toru) (80824466)	熊本学園大学・商学部・准教授 (37402)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------

米国	ウィスコンシン大学	ジョージタウン大学		
----	-----------	-----------	--	--